

# 信越ポリマー株式会社

## 2022年3月期決算説明会 質疑応答要旨

日時	2022年5月10日(火) 14:00~15:00		
開催形式	ウェビナー(ライブ配信)		
出席者	・代表取締役社長	社長執行役員	小野 義昭
	・取締役	専務執行役員 営業本部長	出戸 利明
	・取締役	常務執行役員	高山 徹
	・常務執行役員	新事業統括室長	古川 幹雄
	・常務執行役員	開発本部長	菅野 悟
	・執行役員	管理本部経理部長	小和田 収

### <全社>

**Q1.** 原材料値上げに対する価格転嫁の状況と今後の見通しについて

**A1.** 塩ビ・ポリカーボネート・シリコンと全ての材料で値上がりした。シリコン関連製品は、安定供給のための値上げである旨をお客様にご理解いただき、価格是正できた。塩ビ関連製品も、ラッピングフィルムの一部は今期(2022年3月期)に持ち越したものの、塩ビパイプを含め、ほぼ価格是正できた。今期に入り、塩ビの4次値上げがあり、5月連休明けからお客様との交渉を始めている。遅滞のないよう価格是正を進めていきたい。

**Q2.** 入力デバイスや機能性コンパウンド、導電性ポリマーなどの自動車関連製品の今後の見通しについて

**A2.** 足元、自動車関連製品の受注に関して、顕著に受注が減る兆しはなく、この4月も堅調だったが、4月の中国のロックダウンにより、中国国内の自動車販売台数が約5割減少するなど先行きに不透明感が出ており、今期第1四半期に影響が出るのではないかとみている。

**Q3.** 中国の物流停滞の影響とその終息時期について

**A3.** 当社の蘇州工場の生産は安定しているが、上海市内の販売会社では4月の出荷が約5割減少するなどの影響を受けている。今後は、北京のロックダウンが始まるなどで、この状況は6月頃まで継続するのではないかとみている。

**Q4.** 自動車関連製品の中国市場以外の状況について

**A4.** 米国は堅調だが、欧州はウクライナ問題による部品不足の影響があり、必ずしも堅調ではない。

**Q5.** 2022年3月期の設備投資額の内訳について

**A5.** 61億円のうち8割弱が半導体関連容器事業を含む精密成形品事業に関する投資。

**Q6.** 今後の利益成長、ポートフォリオについて

**A6.** 経常利益100億円の目標は、前期(2021年3月期)に達成したかったが、新型コロナの影響で未達に終わった。当期(2022年3月期)は半導体関連容器が大きく伸び、経常利益100億円を達成できた。今後の方針とし

て、いかなる事業環境でも安定して、売上高 1,000 億円、経常利益 100 億円を維持できるよう、いっそう企業体質を強化していきたい。そのうえで、中長期的に毎年確実に増益できる会社になりたい。中長期的に、半導体産業は確実に伸びるとみており、これに対し、半導体関連容器を確実に生産・販売していくことが、今後の成長の一番大きな原動力になると考えている。そのため、迅速かつ積極的に投資していきたい。自動車産業では、生産台数は大きく伸びないとみているが、技術革新が速く、これに対応した製品を確実に市場に投入していきたい。その意味で、自動車産業も成長産業と捉え、この分野の製品を確実に伸ばしていきたい。また、プリンタ市場は飽和していると言われていたが、小型プリンタはいまだ成長傾向であり、既存のプリンタにおいても、当社の定着ローラが市場で評価され、採用拡大している。OA ローラも製品開発力を強化しながら、着実に伸ばしていきたい。また、多少長いスパンになるとみているが、医療関連製品を伸ばしたい。医療関連製品は一旦採用されると、非常に製品寿命が長い。以前は PL 訴訟のリスクもあり、積極的に事業展開していなかったが、シリコン材料の生体安定性は高く、そのようなリスクが少ないことが分かってきたので、今後は積極的に伸ばしていきたい。当社の成形技術と、販売力の高い会社との協業により、事業拡大できると考えており、M&A の有力な分野となるとみている。このような施策を以て、中長期的に利益を伸ばし、強い企業体質の会社にしていきたい。

#### **Q7. インド工場のポテンシャル、業績寄与のタイミングについて**

**A7.** インド工場は自動車用入力デバイスの生産拠点のひとつだが、インドの労働力は量・質ともに高く、第 3 工場棟も完成している。マレーシアや中国からインドに生産移管することで生産・販売の効率が上がる製品を、逐次移管していく。また、インド国内の自動車産業も急速に伸びており、インド工場の拡充により、インド自動車市場での当社キースイッチの販売シェアを確保できるとみている。新たな自動車向け製品を開拓し、将来的には自動車向け製品の主力工場にしたいと考えている。従来、インド工場は赤字だったが、キースイッチを生産移管して以来、徐々に収支が改善している。当期は利益が出ている。これからも着実に利益を増やしていきたい。

#### **<精密成形品事業>**

##### **Q1. 半導体関連容器の今後の値上げについて**

**A1.** 現在、需給はタイトだが、値上げの幅については、原材料・物流の価格状況を勘案してお客様に説明していく。

##### **Q2. FOSB に比べて FOUP の伸びが大きい要因について**

**A2.** FOSB はウエハーメーカー向け、FOUP はデバイスメーカー向けであり、当期はデバイスメーカーの投資が具体化して FOUP の受注と出荷が大きく伸びた。

##### **Q3. 半導体関連容器の今期の業績見込みと糸魚川工場の増能力寄与の時期について**

**A3.** 糸魚川工場の増能力は、今年 12 月頃から生産に寄与し始める。それまでは、ボトルネックの解消や合理化などで増能力を図っていくため、当期を超える大幅な増収は見込めないが、着実に増能力し、増収を図っていききたい。

##### **Q4. FOSB・FOUP の需要成長率について**

**A4.** FOSB の出荷量はシリコンウエハーの生産量と連動しており、当期は年率 8~10%とみている。FOUP はデバイスメーカーの増能力に拠るため、今期は当期のような伸びはないと思われるが、引き続き強い需要があるとみている。

**Q5.** 当期 3Q から 4Q にかけて、精密成形品事業および住環境・生活資材事業の売上高が減少している背景とその継続性について

**A5.** 精密成形品は、期末要因で 5 億円ほど減収したが、今期に継続するものではないとみている。住環境・生活資材は、外食産業向けラップの価格是正の遅れによる減収と、(株)キッチンスタなどののれん代による減益となったが、4 月から正常化している。

以上